

日本の学童ほいくニュース

2007年1月 東京都学童保育連絡協議会 豊島区南大塚3-37-10
 TEL 5951-2789 FAX 5951-2795
 URL: http://www.gakuho-tokyo.jp E-mail: gakuho@a.toshima.ne.jp

今月号の一押し

その1 ずいそう動物園雑感



高市敦広

高市さんと一緒に写っているピースが白くなってフワフワでとってもカワイイ 抱っこしたい、なでなでしたーいって思っちゃう。今回の高市さんのずいそうはなぜか私たち指導員の思いと重なってもいるようでした。“ベテランと言われる年齢に達すれば達するほどゴールが遠ざかっていく” “ピースによかれと思ってやったことがピースを苦しめる結果になった” “ピースによって自分は飼育係として育てられた” “「動物を幸せにする」そのことを肝に銘じ飼育係としての人生を歩んでいきたい” 高市さんの言葉一つひとつにうなずいてしまう私がいまいました。

その2

特集・応援！働きながらの子育て

私と家族を支えてくれた学童保育

名古屋市高坂学童保育の会保護者 上玉利ひろみ

名古屋の全国集会で特別報告をした上玉利さんのお話を読んで、改めて確信しました。働く親にとって学童保育がとっても大切なものということを一。“大変だからこそ、一人だからこそ父母の会が必要だった” という上玉利さん。みんなにわかってもらいたい、広めたい一心で、子どもたちの日常を映したビデオを学校の入学説明会で上映しようと大きな大きなデッキをお弁当包みにして、たった一人で持ち上げたという話には、笑っちゃいながらも、何だか胸にキュンとするものがありました。

その3

特集・応援！働きながらの子育て

働きながらの子育てを支える学童保育の役割

都留文科大学 田中孝彦

今、とても劣悪な労働条件を求められている女性たち。そして一方で、子どもの問題は親の教育力の低下だと指摘され、

その間で自分を追い込まざるを得ない、働く親たちの実態があります。田中先生のおっしゃる「教師 指導員など、子どもや親を支援する立場にいる人たちは、よっぽどこのことを理解しておかなければならない」ということ、肝に銘じます。私たちは本当に「ここでは安全に生きることが保障されるという実感」を実現していかなければ..と思います。人を傷つけあう事件が多発している今日、その背景には深い「傷」を人々に負わせるという社会の仕組みがあるのだと田中先生は指摘します。一生懸命やっても希望につながらないことが多すぎてみんな疲れてしまっています。大人も子どもも..。みんな元気をもらいたい、だから学童保育..なのかな。

1月号の特集

応援！働きながらの子育て

私と家族を支えてくれた学童保育

名古屋市高坂学童保育の会保護者 上玉利ひろみ

多くの人と子どもの姿がほめられて

津市一身田小学校区つくし会保護者 勝井まどか

働きながらの子育ては修行の毎日

京都市七条第三学童保育所保護者 落合則江

四人五脚迷走記

遠賀町遠賀南学童保護者 西郷寛

子育てのパートナーとして

白山八千代市八千代台東学童保育所 鈴木美加

居場所がたくさんある人生を

生駒市生駒東小児童クラブ指導員 山内美紗

「親働きながらの子育てを支える学童保育の役割

都留文科大学 田中孝彦

今月の都連協人

岸本さんのカメラでこんにちは
文京区立千駄木育成室

第42回全国研究集会(東京)のお知らせ

今月号の一押しその2

その1

講座・障害児の発達保障と生活作り 10
生活は発達を耕す大地

大阪電気通信大学 白石 正久
「子どもは夕方発達する」 強烈な印象を持って私の目にとび込んできました。“子どもの発達には、大人のまなざしや期待から自由になれる時間が必要...でもそれは「めあて」をもたなくてよいということではない。それらを潜ませながら、同じ目の高さに降りていくということ。そして大切なのは、指導員との関係に教育的意図を感じさせないということ。” 学童保育が子どもたちにとって、大きな夕日に見守られているようなあったかい大地になればいいな。いつもいつも白石先生のお話は、障害のあるないに関わらず、どの子にもあてはまることだと思って読ませていただいています。

その2

第22回 試せばハマる家事のワザ...
子どもを生活の共同者に

ナチュラル・ライフ研究家 佐光 紀子
荒川の区連協は、研修会の講師に佐光さんをお呼びしました。その時のことをきっかけに書かれた今回のページ。佐光さんは“心配で手を貸してしまうのが親心だけれど、子どもたちは思いのほかしっかりしているんですよー”と。“子どもとはいっても、一人の生活者保護するだけでなく一緒に暮らす仲間として自立してもらう”の一言、シビれました！信頼されている、便りにされているという自信は、何よりも子どもたちを一人の人間として、生活者として大きくしていくのですね。

その3

わ・た・し・は・指・導・員
ワクワクする気持ちを子どもたちと一緒に

西東京市向台第二 志賀 花織

指導員に必要なのは仲間。西東京市の志賀さんのウキウキと弾んでいるような文章から、学童保育が大好き！子どもたちが大好き！の思いが伝わってきます。でも西東京市には、5年の雇止めという制度があるのです。大好きなこの仕事を、ずっと続けられないかもしれない、そんな不安を抱えながらも、幸せな気持ちでいられるのは、何よりも、同じように学童保育が大好きで仕方ない指導員の仲間たちがいるから..。“その人たちがいてくれること、つながっているという安心感が自分を支え元気にしてくれているんだ”と志賀さん。全国の指導員の皆さん、一人で悩まないで、自分はダメだ..って思わないで。まわりに目を向ければ、ホラ、あなたと同じように悩んでいる人がいる。一緒に手をつないでいきましょう！！



次号予告2月号

特集・第42回全国学童保育研究集会

- ・記念講演 横島園子
- ・参加者の感想
- ・講師の先生方からのメッセージ

ずいそう 山田ズーニー

講座・障害児の発達保障と生活づくり 白石正久

子どもたちのまなざし 土佐いく子

試せばハマる家事のワザ 佐光紀子

カメラでこんにちは/父母会/仕事・職場のいま/わたしは指導員/クイズ/まんが/子どものひろば/読者のひろば/ほか